

平成29年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第5節家庭・地域の教育力の向上
施策名	1. 家庭教育支援体制の充実

施策の内容	目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。
	現状と課題	<p>家庭教育は、乳幼児期を出発点として信頼感や自立心、社会生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせるためのしつけを行うなど、人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っています。</p> <p>そのため、親が家庭教育の大切さを実感できるよう、家庭の教育力向上を目指した取組などを展開することで、支援する輪を広げていくことが必要となっています。</p> <p>学校などを地域の学習・交流拠点として活用し、地域の人たちが主体的に参画することを通じて地域の教育力を高め、人と人とのつながりや学校・家庭・地域の連携を推進していく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名	現状(平成25年度)
(1)	家庭教育学級の参加人数	1,848人
(2)	親の学習子育て講座の参加人数	525人
(3)		
(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
(1)	2,244人	1,992人	1,914人		3,000人
(2)	546人	437人	434人		500人
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	938	937	0	0	0	937

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<p>・家庭教育学級の述べ参加者は1,914人であった。</p> <p>・就学時検診に併せ「親の学習子育て支援講座」を実施。4小学校合計で434人の参加者。子育てアドバイザーの助言をもとに保護者が一堂に会し、子育てについて見つめ直すことで家庭の教育力の向上が図られた。</p>	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・南部・中部地区は少子高齢化が進んでおり、北部地区は子育て世代の流入が落ち着いてきた。 ・共働きの家庭が多くなってきている。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・土日を中心とした事業に、親の参観希望が増加している。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA家庭教育学級のプログラム企画立案にあたり、PTAの意見を取り入れたり、社会教育指導員が企画内容にアドバイスを送り、適切な事業が実施された。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域の協力なくして事業を発展させることは難しい。 ・事業の性質上、平日の昼間に実施せざるを得ない。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<p>家庭教育学級は、家庭・学校・地域社会が互いに連携し、継続することが肝要である。地域の指導者を積極的に活用し、魅力ある事業を展開していきたい。</p> <p>家庭教育学級の事業内容が、カルチャー志向の傾向にあるので、参加者の意向を反映させつつ学習プログラムを見直していく。</p>
---------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	複数の学校が合同開催することで、事業の効率化・予算の軽減化がなされている。
----------------------	---------------------------------------

平成29年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第5節家庭・地域の教育力の向上
施策名	2. 地域の教育力の向上

施策の内容	目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。
	現状と課題	<p>家庭教育は、乳幼児期を出発点として信頼感や自立心、社会生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせるためのしつけを行うなど、人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っています。</p> <p>そのため、親が家庭教育の大切さを実感できるよう、家庭の教育力向上を目指した取組などを展開することで、支援する輪を広げていくことが必要となっています。</p> <p>学校などを地域の学習・交流拠点として活用し、地域の人たちが主体的に参画することを通じて地域の教育力を高め、人と人とのつながりや学校・家庭・地域の連携を推進していく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名	現状(平成25年度)
(1)	家庭教育学級の参加人数	1,848人
(2)	成人式の出席率	73.33%
(3)		
(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
(1)	2,244人	1,992人	1,914人		3,000人
(2)	73.33%	77%	78.90%		75%
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,593	1,590	0	0	0	1,590

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	<p>新成人者の門出を祝福するとともに、新成人者自身が社会の一員として権利・義務の責任ある行使と、独立した個人としての誇りを認識する良い機会となった。</p> <p>該当者479名に対し、378名の出席者となり、出席率78.9%であった。</p> <p>社会教育関係団体に活動費の補助金を交付することにより、充実した活動が行われた。</p> <p>町子ども育成会連絡協議会が力を入れている「彩の国郷土かるた」では、北支部大会において一般の部団体戦で優勝、個人戦では敢闘賞を受賞。県大会では、団体戦・個人戦に出場した全員が予選を勝ち抜き決勝トーナメントに進出し、結果を残している。</p> <p>ボーイスカウトや町地域ぐるみ青少年健全育成推進協議会は、明るい地域社会と環境浄化に多大な貢献をしている。</p>		

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	新成人対象者及び出席者が増え、会場が手狭になりつつあり、式典の二部制を検討する必要がある。
	住民ニーズの変化について	成人式を同窓会と同様と考えている成人者が増えた。厳かな雰囲気から和やかな雰囲気へと変わってきている。
	展開した事業は適切であったか	成人式準備会を開催し、新成人者のニーズを取り入れており、適切に実施されている。青少年健全育成推進事業は、各推進部会が活発な活動を行い、適切に事業を実施した。
	施策を達成するうえでの障害について	新成人者が記念事業終了後、直ぐに帰宅せず会場の外で談笑を始め、解散時間が遅くなっている。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<p>今後も新成人者の意見を積極的に取り入れ、時代に即した成人式を開催していく。</p> <p>迷惑行為を防止するために注意喚起を行い、事業終了後、速やかに解散するよう促していく。</p> <p>社会教育関係団体における会員数増加の方策を検討し、各団体と連携して後継者育成を推進する。</p> <p>民法改正による成人年齢引き下げにともない、2022年以降の成人式の時期やあり方について情報収集し、検討を進める必要がある。</p>
---------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<p>以前は町予算から新成人者全員に対し記念品を差し上げていたが、抽選にすることで歳出を大幅に削減できた。</p> <p>県派遣講師(無料)を講演会で利用することにより、経費節減に努めている。</p>
----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成29年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第5節家庭・地域の教育力の向上
施策名	3. 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

施策の内容	目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。
	現状と課題	<p>家庭教育は、乳幼児期を出発点として信頼感や自立心、社会生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせるためのしつけを行うなど、人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っています。</p> <p>そのため、親が家庭教育の大切さを実感できるよう、家庭の教育力向上を目指した取組などを展開することで、支援する輪を広げていくことが必要となっています。</p> <p>学校などを地域の学習・交流拠点として活用し、地域の人たちが主体的に参画することを通じて地域の教育力を高め、人と人とのつながりや学校・家庭・地域の連携を推進していく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	家庭教育学級の参加人数	1,848人
	(2)	親の学習子育て講座の参加人数	525人
	(3)		
	(4)		

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	2,244人	1,992人	1,914人		3,000人
	(2)	546人	437人	434人		500人
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	938	937	0	0	0	937

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<p>・防災キャンプに小・中学生が71名参加し、大地震の発生から体育館における避難所の立上げをテーマに防災体験を行い、班行動を通じて高学年のリーダーシップや組織性を養った。</p> <p>また、児童、生徒、保護者、地域住民が共同で訓練を行うことで児童や生徒の社会性を養い、地域連携が図られた。</p>	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・南部・中部地区は少子高齢化が進んでおり、北部地区は子育て世代の流入が落ち着いてきた。 ・共働きの家庭が多くなってきている。
	住民ニーズの変化について	・土日を中心とした事業に、親の参観希望が増加している。
	展開した事業は適切であったか	防災意識の向上により、地域の人たちが積極的に事業に協力し、指導者としても参加している。親子で参加できる事業の参加希望が増えた。
	施策を達成するうえでの障害について	・学校、地域の協力なくして事業を進展させることは難しい。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<p>防災キャンプ実行委員会を立上げ、地域の方々の協力を得ながら、より中身の濃い事業を実施していく。参加者の健康面(熱中症防止)を考慮し、実施会場を小学校の体育館ではない場所を検討する必要がある。</p> <p>その一方、学校の業務改善も進められ、連携のあり方を検討する必要がある。</p>
---------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	様々な年齢層の方々が防災キャンプを体験し協力し合うことで、安心・安全なまちづくりの人材育成や協働のまちづくりに繋がっていく。
----------------------	----------------------------------------------------------------

平成29年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第6節生涯にわたる学びの支援とスポーツの推進
施策名	2. 文化芸術の振興と伝統文化の継承

施策の内容	目指す姿	生涯にわたり学習やスポーツを楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに活かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が高まっています。
	現状と課題	<p>生涯を通じた学習への取組は、多種多様に行われており、健康増進、趣味・教養講座への高い要望がある一方で、学んだことを積極的に地域や社会に還元しようとする人も増えています。</p> <p>誰もが自由に学習機会を選択して学ぶことのできる環境の整備が求められていますが、本町では、町内の全小中学校、高等学校、大学とも連携して各種事業や講座を開催し、学習ニーズの多様化、高度化に対応しています。生涯学習の拠点である公民館のある総合センター及び図書館は、老朽化への対応が必要となっています。</p> <p>スポーツについては、健康志向の高まりを背景に健康づくりとして推進する必要がありますとともに、家庭や地域のコミュニケーションを深める場としても重要な役割を果たしています。スポーツ施設は屋内・屋外とも不足がちとなっており、計画的な改修や用地の確保などが必要となっています。また、不足している指導者の育成にも力を入れていく必要があります。</p> <p>町内には「小貝戸貝塚」や「伊奈氏屋敷跡」など町の成り立ちや先人の足跡を知る上で欠くことのできない文化財が多くあります。それらの文化財を継承することは郷土に対する関心を高め、町民の連帯感を育むことにつながることから、優れた文化遺産の歴史的価値の十分な認識と適切な保護を図り、町民が歴史や文化にふれる機会を増やすことが必要となっています。</p>

まちづくり目標値	指標名	現状(平成25年度)
(1)	学校開放講座の参加者数	806人
(2)	図書館の蔵書数	121,971冊
(3)	町展の出品者数	98名
(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
(1)	1,215人	1,155人	1,003人		1,200人
(2)	126,688冊	129,139冊	129,169冊		130,000冊
(3)	106名	103名	102名		130名
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,518	1,477	0	0	0	1,477

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<p>学習した成果の発表の場として、総合文化祭を11月11日から11月12日の2日間にわたり開催し、約7,000人の来場者だった。</p> <p>伊奈町文化協会に加盟している団体においては、各団体が積極的に活動を行い、展覧会や発表会を開催し、大きな成果を出している。</p> <p>町展を10月17日から10月22日の6日間にわたり開催し、102名・133点の出品があり、町の文化芸術の向上に寄与した。</p>

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	生涯学習に対する住民ニーズは多様化・高度化している。伝統芸能を継承する若者が減少しており、解散を余儀なくされた団体もある。
	住民ニーズの変化について	健康増進・趣味・教養に関する講座に対し、質の高いものを求める傾向にある。流行や人気には変化があるので、状況をリサーチして事業を企画する必要がある。
	展開した事業は適切であったか	事業は概ね高評価であった。学習成果を個人に留まらず、地域社会へ還元し活用できる環境づくりを推進する。
	施策を達成するうえでの障害について	団体の構成員が高齢化してきているので、若者の参加と後継者育成が課題である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<p>事業参加者の意見を取り入れた新事業の実施。</p> <p>事業結果を踏まえ、事業内容の検討。</p> <p>伝統芸能団体との連携方法について検討。</p>
---------------------	----------------------------------------------------------------------------------

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<p>県指定史跡である伊奈氏屋敷跡を貴重な文化遺産と捉え、地域住民と関係機関を交え協議、調整を行い整備しつつ協働のまちづくりを目指していく。</p>
----------------------	----------------------------------------------------------------------------

平成29年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第6節生涯にわたる学びの支援とスポーツの推進
施策名	3. スポーツを通じた元気なまちづくり

施策の内容 現状と課題	<p>生涯にわたり学習やスポーツを楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに活かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が高まっています。</p>
	<p>生涯を通じた学習への取組は、多種多様に行われており、健康増進、趣味・教養講座への高い要望がある一方で、学んだことを積極的に地域や社会に還元しようとする人も増えています。</p> <p>誰もが自由に学習機会を選択して学ぶことのできる環境の整備が求められていますが、本町では、町内の全小中学校、高等学校、大学とも連携して各種事業や講座を開催し、学習ニーズの多様化、高度化に対応しています。生涯学習の拠点である公民館のある総合センター及び図書館は、老朽化への対応が必要となっています。</p> <p>スポーツについては、健康志向の高まりを背景に健康づくりとして推進する必要がありますとともに、家庭や地域のコミュニケーションを深める場としても重要な役割を果たしています。スポーツ施設は屋内・屋外とも不足がちなっており、計画的な改修や用地の確保などが必要となっています。また、不足している指導者の育成にも力を入れていく必要があります。</p> <p>町内には「小貝戸貝塚」や「伊奈氏屋敷跡」など町の成り立ちや先人の足跡を知る上で欠くことのできない文化財が多くあります。それらの文化財を継承することは郷土に対する関心を高め、町民の連帯感を育むことにつながることから、優れた文化遺産の歴史的価値の十分な認識と適切な保護を図り、町民が歴史や文化にふれる機会を増やすことが必要となっています。</p>

まちづくり目標値	指標名	現状(平成25年度)
(1)	町スポーツ施設の利用者数	310,492人
(2)		
(3)		
(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
(1)	291,460人	309,474人	318,073人		360,000人
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	20,519	19,781	0	0	1,950	17,831

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	<p>町スポーツ施設の利用者数については、平成28年度実績が309,474人、平成29年度実績が318,073人と約8,600人増加した。施設備品等は経年劣化しているが計画的に更新することにより、利用者に対し快適な活動の場を提供することができた。また、各種スポーツ教室等の開催により町民の健康づくりのサポートをしている。</p>	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	既存の施設における備品等は経年劣化により計画的な更新が必要。
	住民ニーズの変化について	施設の充実を求める声が増加してきている。
	展開した事業は適切であったか	開催したスポーツ教室においては、全ての種目が9割以上の申し込みがあり、町民のスポーツに対する関心が増えてきた。教室をとおしてスポーツ愛好者が増加するなどの効果も得られ、事業は適切であった。
	施策を達成するうえでの障害について	より充実した事業を展開するには、スポーツ施設の整備が課題である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	丸山スポーツ広場の用地取得やテニスコートの改修及び各施設の維持管理等を計画的に進めるとともに、利用者のニーズに応じた安全な施設運営を展開していく。また、町主催のスポーツイベント、軽スポーツ推進については、関係団体と連携して事業の充実を図っていく。
---------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	定期的な施設点検や利用者からの情報により、限られた予算の中で優先順位を決め適切な施設維持管理を行った。
----------------------	-----------------------------------------------------

平成29年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第6節生涯にわたる学びの支援とスポーツの推進
施策名	4. 文化財及び町史(古文書等)の保護・保存・活用

施策の内容 現状と課題	<p>生涯にわたり学習やスポーツを楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに活かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が高まっています。</p>
	<p>生涯を通じた学習への取組は、多種多様に行われており、健康増進、趣味・教養講座への高い要望がある一方で、学んだことを積極的に地域や社会に還元しようとする人も増えています。</p> <p>誰もが自由に学習機会を選択して学ぶことのできる環境の整備が求められていますが、本町では、町内の全小中学校、高等学校、大学とも連携して各種事業や講座を開催し、学習ニーズの多様化、高度化に対応しています。生涯学習の拠点である公民館のある総合センター及び図書館は、老朽化への対応が必要となっています。</p> <p>スポーツについては、健康志向の高まりを背景に健康づくりとして推進する必要がありますが、家庭や地域のコミュニケーションを深める場としても重要な役割を果たしています。スポーツ施設は屋内・屋外とも不足がちとなっており、計画的な改修や用地の確保が必要となっています。また、不足している指導者の育成にも力を入れていく必要があります。</p> <p>町内には「小貝戸貝塚」や「伊奈氏屋敷跡」など町の成り立ちや先人の足跡を知る上で欠くことのできない文化財が多くあります。それらの文化財を継承することは郷土に対する関心を高め、町民の連帯感を育むことにつながることから、優れた文化遺産の歴史的価値の十分な認識と適切な保護を図り、町民が歴史や文化にふれる機会を増やすことが必要となっています。</p>

まちづくり目標値	指標名	現状(平成25年度)
(1)	指定文化財の数	17件
(2)		
(3)		
(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
(1)	18件	18件	21件		19件
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	20,003	19,538	6,674	0	49	12,815

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	<p>・伊奈氏屋敷跡保存活用計画策定に伴う二の丸跡の発掘調査の実施やその調査成果を発表した現場説明会・企画展、忠次の功績をまとめたPR映像や散策路マップの作成により、住民の伊奈氏や伊奈氏屋敷跡に対する興味・関心を高めることができた。・伊奈氏屋敷跡散策路に誘導標識6基、頭殿権現社地内に説明板を設置し、見学しやすい環境を整えた。・伊奈町初となる町指定無形民俗文化財に「下郷区の春祈禱」「中荻のお獅子様」を指定し、その調査結果を『伊奈町文化財調査報告書第2集』として刊行した。これにより、地域コミュニティにおける無形民俗文化財が果たす役割を紹介し、文化財を保護・継承する雰囲気醸成した。・町立郷土資料館における中学生社会体験チャレンジ事業や教員研修活動の受入、体験学習の実施、企画展関連講演会の実施により、文化財に対する興味・関心を得られた。</p>		

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	・埋蔵文化財包蔵地内における開発に伴う試掘調査件数が増えている。また、伊奈氏関連事業の展開により、伊奈氏(伊奈氏屋敷跡)の認知度が高まり、伊奈氏(伊奈氏屋敷跡)の歴史や遺構についての問合せが増えている。他にも資料寄贈依頼や講師依頼も増えている。
	住民ニーズの変化について	・郷土資料館の展示内容の充実、パンフレット希望の問合せの増加。 ・伊奈氏屋敷跡の現状を活かし、史跡として遺構をわかりやすく、見やすくしてほしいという問合せ。
	展開した事業は適切であったか	・伊奈氏関連事業を展開した結果、伊奈氏やその周辺人物、伊奈氏屋敷跡についての問合せが増え、伊奈氏の認知度が高まっている。 ・伊奈町周辺で実施されている同様の民俗行事の中でも、古い形態を比較的残す「下郷区の春祈禱」「中荻のお獅子様」を新たに町指定無形民俗文化財に指定し、調査報告書を刊行することで、町民の文化財に対する意識を高めることができた。
	施策を達成するうえでの障害について	・町史編集事業の過程で収集した資料や寄贈資料、試掘(発掘)調査出土遺物などが増加し、保管場所や展示場所が十分に確保されていない。 ・電子機器や道具の不足により、資料を活かすことができず、問合せや依頼に十分に答えられていない。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<p>・「伊奈氏屋敷跡保存活用計画」を策定後、継続的に確認(試掘)調査等各種調査を行い、伊奈氏屋敷跡の中長期的な計画として、「伊奈氏屋敷跡整備計画」(仮)を策定することで、文化財としての適切な保存・管理・整備に努めるだけでなく、活用にも力を注ぐ。</p> <p>・『伊奈忠次の生涯』(仮)の刊行。</p> <p>・『伊奈町史 通史編Ⅲ』(仮)の平成32年度の刊行に向けた調査及び執筆作業。</p> <p>・過去の試掘(発掘)調査で出土した遺物の再整理(報告書の刊行を含む)の実施。</p> <p>・町内に所在する文化財の全体調査。</p>
---------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<p>・伊奈町の地理・自然・歴史あるいは町内所在の文化財などについて、もっと知りたいという住民のニーズに応えるため、資料の収集・保存・整理・調査・公開・活用を進めているところではあるが、より効果的・効率的に進めていく必要がある。また、取組の周知を図るための広報活動について、イベントごとにポスターやチラシ、簡易パンフレットを作成、配布している。このような活動をより積極的に進めていくことで歴史・文化への意識高揚を促進することが重要である。</p>
----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成29年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第5章町民と行政が協働するまちに暮らす
節名	第5節人権尊重と平和意識の啓発推進
施策名	1. 人権・同和教育啓発の推進

施策の内容	目指す姿	誰もが互いの人権を尊重し合う中で、自分らしく生きる社会が形成されています。また、平和意識が世代を超えて継承されています。
	現状と課題	<p>基本的人権は、日本国憲法において侵すことのできない永久の権利としてすべての人に保証されています。しかしながら、同和問題をはじめとして女性、子供、高齢者、障がい者などの人権に対する様々な課題に加え、インターネットによる人権侵害や社会構造の変化に伴う新たな人権課題も顕在化してきています。</p> <p>すべての人の基本的人権を尊重するためには、一人一人が人権を身近な問題として捉え、人権について正しく理解し、人権意識を高めていくことが大切です。本町では、人権講座や研修会などの教育・啓発活動に継続的に取り組んできました。今後も講習会等に気軽に参加できる環境づくりを進め、より多くの人の意識啓発に努めていく必要があります。</p> <p>平和意識の醸成において、町では平成15年3月に平和都市を宣言し、平和な社会の実現に向けた平和意識の高揚や啓発を図っているところです。戦後70年近くが経過し、戦争を知る世代が少なくなりつつあります。戦争の悲惨な記憶を風化させないためにも、学校などと連携しながら平和に関する学習を継続し、次の世代に継承していく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	人権講座などへの参加者数	324人
(2)			
(3)			
(4)			

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	275人	322人	356人	
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,327	1,075	0	0	0	1,075

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	人権講座等の参加者のアンケートには「これを機に正しい知識と情報を身につけたい」「今まで何の疑問も持たずにいたことが本当に正しいことなのか考えさせられた」等の意見があり、「気づき」のきっかけにできたといえる。但し、中には講座に否定的な意見も頂いたので、今後は講師の選定、人の集め方・周知方法等を検討する必要がある。		

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	人権に対する意識は高まりつつあるが、人権に関する問題も多様化している。
	住民ニーズの変化について	生活様式が多様化している。お互い受け入れ、時には妥協しあわなければならない状況である。人権講座ではアンケートを実施し、講座を受講した感想のほか、興味のあるテーマなども聞くようにすることで、住民ニーズを調べている。
	展開した事業は適切であったか	参加者の意見からは、人権に対する意識を高める「きっかけ」になったという意見をいただいており、適切であったといえる。
	施策を達成するうえでの障害について	開催時間や周知方法について検討し、広く多くの人に参加してもらう必要がある。

次年度以降における施策の具体的な方向性	人権講座へ広く多くの人に参加してもらうための方策を検討し、実践する。具体的には夜間・休日の開催や、チラシの作成・配付等である。
---------------------	-----------------------------------------------------------------

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 人権講座においては、アンケートを基に住民が希望するテーマを設定するようにしている。 人権標語ポスターの部数の見直しや人権教育広報紙みどりのページ削減等を行い、コストの削減も進めている。 人権講座などのイベントについては必ずホームページに掲載し情報の発信を心がけている。
----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成29年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第6節生涯にわたる学びの支援とスポーツの推進
施策名	1. 学び合いの生涯学習の推進

施策の内容	目指す姿	生涯にわたり学習やスポーツを楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに活かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が高まっています。
	現状と課題	生涯を通じた学習への取組は、多種多様に行われており、健康増進、趣味・教養講座への高い要望がある一方で、学んだことを積極的に地域や社会に還元しようとする人も増えています。 誰もが自由に学習機会を選択して学ぶことのできる環境の整備が求められています。本町では、町内の全小中学校、高等学校、大学とも連携して各種事業や講座を開催し、学習ニーズの多様化、高度化に対応しています。生涯学習の拠点である公民館のある総合センター及び図書館は、老朽化への対応が必要となっています。 スポーツについては、健康志向の高まりを背景に健康づくりとして推進する必要があります。また、家庭や地域のコミュニケーションを深める場としても重要な役割を果たしています。スポーツ施設は屋内・屋外とも不足がちとなっており、計画的な改修や用地の確保などが必要となっています。また、不足している指導者の育成にも力を入れていく必要があります。 町内には「小貝戸貝塚」や「伊奈氏屋敷跡」など町の成り立ちや先人の足跡を知る上で欠くことのできない文化財が多くあります。それらの文化財を継承することは郷土に対する関心を高め、町民の連帯感を育むことにつながるから、優れた文化遺産の歴史的価値の十分な認識と適切な保護を図り、町民が歴史や文化にふれる機会を増やすことが必要となっています。

まちづくり目標値	指標名	現状(平成25年度)
(1)	学校開放講座の参加者数	806人
(2)	図書館の蔵書数	121,971冊
(3)		
(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
(1)	1,215人	1,155人	1,003人		1,200人
(2)	126,688冊	129,139冊	129,169冊		130,000冊
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	147,442	146,659	0	0	19,294	127,365

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		多種多様な講座の開設により、町民の幅広いニーズに応える学習機会を提供できた。人財バンク登録者の紹介や登録者によるパソコン寺子屋の運営は、受講者人数が多く安定している。サークルについては、代表者の辞退や高齢化などで減少傾向にあったが、新規サークルの立ち上げもあり、今後も支援していきたい。施設に関しては、図書館は図書消毒機を導入し、使用者に好評であった。また、ウニクス伊奈へのブックポスの設置やブックシャトルの巡回回数増加により、利便性の向上を図ることができた。ゆめくるは、LED化工事を順調に実施し、利用者の要望に応え冷風機を増設。利用者にも好評であった。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	生涯学習に対する住民ニーズは、年々多様化・高度化している。ゆめくるでの利用者が多くなり一部施設の予約が困難となっている。
	住民ニーズの変化について	健康増進・趣味・教養に関する講座に対し、質の高いものを求める傾向にある。流行や人気は変化があるので、動向を的確に捉える必要がある。
	展開した事業は適切であったか	事業は一定の評価を得ている。学習成果を個人に留まらず、地域社会へ活かす環境づくりが必要である。教室(講座)終了後、サークル化へ発展するかが、今後のテーマとなっている。
	施策を達成するうえでの障害について	ほぼ個人学習で終了となっている。趣味として継続して活動するためのサークル活動や指導者への育成も今後必要である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	各事業内容の更なる充実。事業結果を踏まえて、実施内容の再検討。施設の老朽化に対する適切なメンテナンス等の管理運営。
---------------------	-----------------------------------------------------------

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	町民の多様な要望に応えるべく、図書館とゆめくるに指定管理者制度を導入し、コストとニーズの双方を意識しながら運営を行っている。定期的に利用者アンケートを行い、利便性の向上を図っている。各種講座については、多くの町民に参加してもらうために、今後も広報紙やフェイスブック、いなナビを活用していく。
----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------